

4 : 活動過程

(使用時間 : 90分 参加人数 : 何人でも可)

過程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・説明・動きなど	ねらい	使用する教材・備品	予想される反応 ※注意事項
導入 : 起 (15分)	<p>【フォトランゲージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各班に世界のカレー料理の写真を1枚配り(各班に違った写真)、それを見て気がついたことや連想したことを文字や絵などでホワイトボードに書いてもらう。 ホワイトボードを全員に見せながら、どんなことが挙がったか班ごとに発表してもらう。発表中はプロジェクターでその班に配られた写真を投影する。 各班の写真が何の料理かを解説する。 	<p>「皆さん、これから班ごとに、ある料理の写真を配ります。班の皆でよく見て、気がついたことや連想したことを、ホワイトボードに自由書いてください。時間は0分です。書いたことを後で発表してもらいます。何か質問などはありますか？それでは始めてください。」</p> <p>(全て世界のカレー料理の写真だが、そう思わないようなものを4種類程準備する。)</p>	<p>身近なカレーも、地域が違えば様々であり、それぞれのカレーの背景を知りながら、違いを楽しむ。</p> <p>・皆の考え方の共通点や違いに気付く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ミニホワイトボードまたは模造紙(班の数分) ペン(班の数分) 移動黒板またはホワイトボード 磁石(班の数分×2) プロジェクター(・マイク) 	<ul style="list-style-type: none"> これは何の、どこの食べ物だろう。 できるだけ沢山挙げるぞ。 <p>※ 生徒の取組について声かけや可視化をする。</p>
展開 : 承 (35分)	<p>【シュミレーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> 異文化コミュニケーションに関するタスクに1問ずつ取り組み、まずは個人で考えた後、班で話し合い、考えを全体で共有し、解説を加えていく。 <p>(タスクは4つほど準備する。初めは違いを楽しむもので、選択肢形式とする。後半は記述式とし、思考を深め、様々な考えが出てきそうなタスクを設定する。)</p>	<p>「先ほどは世界のカレー料理について紹介しました。地域によって違っていましたね。今度は『人』に焦点を当てます。これからいくつか場面を提示して質問します。まずは自分で考えた後、班で話し合ってください。何人かの人に発表してもらった後、解説したいと思います。何か質問などはありますか？それでは始めます。」</p>	<p>異文化コミュニケーションに関して、理解を深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート(全員分) プロジェクター(・マイク) 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しそう。 難しそう。 頑張るぞ。 <p>※ 班隊形のまま行う。</p> <p>※ 問題数と内容は学習者や授業進度に合わせて変える。</p> <p>※ 場面提示、思考、相談、解説とメリハリをつけて進める。</p>

<p>展開：転 (30分)</p>	<p>【ディスカッション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの授業を振り返り、様々な文化背景や価値観をもつ人たちと共に生活していく上で、どのようなこと(知識や態度)が大切だと思うか考える。 ・ まずは個人でブレインストーミングをして一つの考えを一枚の紙に書いていく。(4分) ・ その後、班で考えを出し合い、集約し、大事だと思う考えを6つ(または9つ)選ぶ。できれば重要度でランキングする。(18分) ・ 各班のランキングをワールドカフェで共有する。(7分) 	<p>「これまでの授業を振り返り、様々な文化背景や価値観をもつ人たちと共に生活していく上で、どのようなこと(知識や態度)が大切だと思いますか？まずは自分で考えて、一つの考えを一枚の紙に書いてください。考えたことは遠慮なくどんどん書いてください。その後、班で話し合います。時間は4分です。何か質問などはありますか？それでは始めてください。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ その後、班での話し合い方、ランキングの付け方を説明する。 ・ 最後にワールドカフェ形式の共有の仕方について説明する。 	<p>様々な文化背景や価値観をもつ人たちと共に生活していく上で、どのようなこと(知識や態度)が大切かを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無地の紙 (生徒数×10枚) ・ 模造紙 (班の数分) ・ ペン (班の数分) ・ のり (班の数分) ・ プロジェクター (・マイク) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 難しそう。 ・ 大切なことって何だろう。 ・ 頑張るぞ。 ※ どの意見も肯定的に捉えることを確認する。 ※ 班の様子を見て、必要に応じて問いかけや声かけなどをしていく。
<p>まとめ：結 (10分)</p>	<p>【振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業全体を振り返り、学んだことや感じたことをワークシートに記入する。(5分) ・ ワークシートに書いたことをペアで交流した後、全体で共有する。(3分) ・ 参加者の取組の評価と授業者の願いを述べて終わる。(2分) 	<p>「では最後に、この授業で皆さんが考えたことを振り返ります。学んだことや感じたことをワークシートに記入してください。時間は5分間です。始めてください。」</p> <p>「では、書いたことをもとに、ペアで振り返りを伝え合ってください。時間は2分間です。始めてください。」</p>	<p>この授業を振り返り、学んだことや感じたことを明確にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート (全員分) (・マイク) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何を学んだかな。 ・ 印象的だったことを書こう。 ※ 静かな雰囲気を作って取り组ませる。

5：会場のセッティング

普通の授業隊形

※途中から机を合わせて班隊形（4人班）になります。

※パワーポイント使うので、プロジェクターやスクリーン（または大型テレビ）の設置が必要です。

6：使用する教材

パソコン、プロジェクター、スクリーン、スピーカー、BGM、ミニホワイトボード、模造紙、ペン、磁石、ワークシート、無地の紙（A4を横に3分の1に切ったものを生徒数×10枚分）、のり

7：参考にした資料

- ・「異文化コミュニケーション・ワークブック」矢代京子・荒木晶子・樋口容視子・山本志都・コミサロフ喜美、三修社、2001
- ・「『共に生きる』をデザインするグローバル教育 教材と活用ハンドブック」NPO 法人全国国際教育協会、株式会社メディア総合研究所、2012
- ・「身近なことから世界と私を考える授業Ⅱ」開発教育研究会、明石書店、2012
- ・「創造的に対立解決 一教え方ガイド」リンダ・ランティエリ、トム・ロドリック、ペギー・レイ、シェイラ・アルソン、開発教育研究会、立教大学ESD研究センター、2012
- ・「多様性教育入門 参加型人権教育の展開」大阪多様性教育ネットワーク、森実、解放出版社、2005
- ・「生徒の生き方が変わる グローバル教育の実践」石森広美、メディア総合研究所、2015
- ・「ワールド・カフェをやろう！」香取一昭・大川恒、日本経済新聞出版社、2009
- ・「JAPAN CLASS 一方、そのころ日本では…」ジャパングラス編集部、東邦出版、2015
- ・「JICA 国際理解教育実践資料集 ～世界を知ろう！考えよう！～」JICA 地球ひろば、2013

8：その他